

第34回 品質工学研究発表大会

7月1日-2日

統計数理研究所 (東京・立川市)

研究発表大会へのお誘い



品質工学会理事・副会長
研究発表大会実行委員長

浜田 和孝

変化の時代に求められる品質工学

品質工学は製品や工程のバラつきを低減する技術として発展してきましたが、近年では、AI（人工知能）・データ活用、ソフトウェア、業務プロセス改善など適用領域を大きく広げています。

研究発表大会では開発・設計から製造、教育、人材育成まで、多様な実践事例が報告されます。発表後には対話型の議論の場を設け、背景や工夫、課題について直接意見を交わします。分野を越えた交流を通じて、産業や社会の変化に対応する品質工学の、新たな可能性を共有できる大会となることを期待しています。

大会開催にあたって



品質工学会会長
「マツ」技術顧問

佐藤 吉治

「どこから手をつければ」を乗り越える

今年も品質工学研究発表大会を開催できることをうれしく思います。私は現役当時、開発責任者として品質工学の重要性を認識しながらも、実践に生かしきれなかったという苦い思いが今も残っています。同じ経験を持つ開発者や技術管理者、経営者は少なくはないはず。「必要性はわかっている。しかし、どこから手をつければよいか」。今大会の66件の実践事例と発表者との直接の対話が、その答えをもたらしてくれるはず。開発部門の技術者の皆さま、開発投資の意思決定を担う経営者の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

品質工学会は7月1、2の両日、「第34回品質工学研究発表大会」を統計数理研究所（東京都立川市）とオンラインのハイブリッド形式で開催する。研究発表66件に加え、矢野宏賞創設記念講演や生成AI（人工知能）による情報提供ツール紹介などの特別企画も行う。参加申し込みは19日まで。詳細は品質工学会ホームページ（<https://www.rqes.or.jp/>）の大会特設ページへ。

PR

「仕事のムダ、まだ続けますか？」

品質工学で“試行錯誤”に頼らない技術開発を可能に

自動車・電機・医療・食品など多くの現場で、大きな成果
多くの事例を活かし、設計と生産に革新を起こす“技術評価”の知恵

一般社団法人

品質工学会

Robust Quality Engineering Society

品質工学会は、その理論と実践を結ぶ
プロフェッショナルの組織です
詳細・入会方法は右のQRコードから
ご覧ください



品質工学各賞を選定

品質工学の未来多角的に議論

品質工学は統計学者の田口玄一博士がほぼ独学で築き上げた。品質の定義、機能性評価、基本数理、手法としての実験計画、工程管理、品質管理、多次元データの処理、パターン認識まで含む、多様性のある学問となっている。年に1度開催する品質工学研究発表大会は、一昨年からテーマを設定せず、幅広い視点で発表や議論を行う場として実施している。今年の研究発表は66件。各セッションにおいて複数件の発表終了後、発表ごとに分かれてパネル前に集まり、発表者と参加者が直接議論を行う形式を昨年から採用した。この議論は現地参加者のみが対象となっている。品質工学の最前線に触れて新たな知見を得る機会を提供するとともに、品質工学の未来について多角的に議論が交わされる大会を目指す。1日は特別企画が二つ行われる。10時20分からは特別企画①「矢野宏賞創設の案内および第一回受賞記念講演」を、11時20分からは特別企画②「生成AI (NotebookLM) による品質工学情報提供ツールの紹介」を実施する。2日には品質工学会 ASI賞などの受賞記念講演や表彰式も行われる。

【公益財団法人精密測定技術振興財団品質工学賞論文賞】

◇金賞
「深層学習を応用した道路設備の腐食損傷検出方法の検討—CNNとMT法の利用—」
矢野耕也／行木靖人／豊谷純／大前佑斗／谷平春人（日本大学）／伊藤正人／高橋大樹（NEXCO東日本エンジニアリング）

◇銀賞
「効率的な技術開発のための故障予測分析手法の構築」
落合誠／野口あゆみ／野上直樹／安藤力（富士フィルムビジネスイノベーション）

【品質工学会 ASI賞】
「深層学習を応用した道路設備の腐食損傷検出方法の検討—CNNとMT法の利用—」
矢野耕也／行木靖人／豊谷純／大前佑斗／谷平春人（日本大学）／伊藤正人／高橋大樹（NEXCO東日本エンジニアリング）

【第11回 品質工学会日本規格協会理事長賞】
檜原 弘之（九州工業大学）

【2026年品質工学会 矢野宏賞（第1回）】
小野元久（宮城教育大学名誉教授）／田中久（佐賀県産業振興機構）

【2026年品質工学会学生賞】
「Improving efficiency through data selection for remote injection molding condition monitoring systems using the Mahalanobis-Taguchi method 他」
工藤 恵梧（埼玉工業大学大学院工学研究科 機械工学専攻 博士前期課程2年）
「エキサイテーションパターン変換した音モニタリングによる研削作業の自動良否判定に関する研究 他」
岡安賢也（日本工業大学大学院 機械システム工学専攻 博士前期課程2年）（敬称略）

品質工学の実践と普及への貢献に対して

品質工学会

日本規格協会理事長賞

を贈り、これを表彰しています

実験を通してロバスト設計の有効性を体感できるコース

品質工学
セミナー

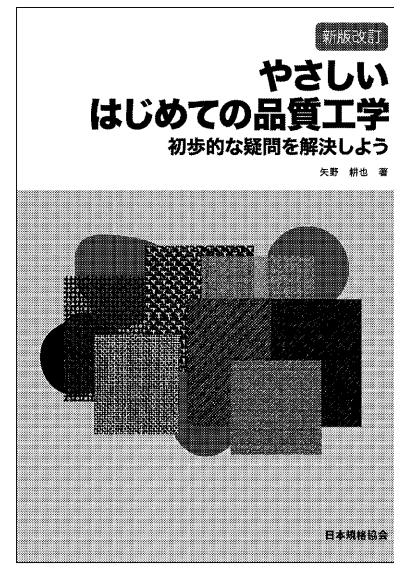
体験型演習で学ぶ タグチメソッド実践コース

2026年 12月1日(火) 2日(水) 開講!

累計発行部数約11000部のロングセラー!
数式なしで品質工学を直感的にマスター!



詳しくは...



価格1,980円(税込) A5判・152頁